

2023 年度活水女子大学入学式 祝辞

院長 湯口 隆司

ご入学及び編入学おめでとうございます。3年に及ぶコロナ禍でマスクを手放せない生活、県外にも自由に行けない、部活動にも制限が多い生活がこれまで続きました。4年ぶりに通常の入学式を大チャペルで一堂に会して挙行できますことを心から嬉しく思います。また来賓、保護者の方々にも活水女子大学入学式にご参列いただき感謝申し上げます。コロナ禍以前の入学式にほぼ近い形で皆さんをお迎えでき、多くの教職員も喜びを胸に秘めつつこの式に参列しております。

よくよく3年間を顧みてみると、私たち教育に関わるものは皆さんの自由な活動に制限をかけてきた側でした。謳歌すべき若き日の生活を「命を守る」という大義名分で、枠に閉じ込めてきた一端を私たち学校関係者は担ってきたことも気づきます。今のこの式典でも複雑な思いが去来しているところです。

この間にわかってきたこともありました。マスクやソーシャル・ディスタンスなど医学的有効性の話ではありません。話し合い、おしゃべりが孤独と不信から人間を解放し人間性を豊かに回復するということの再発見です。ボッカチオの『デカメロン』はベスト感染症から逃れた男女の憂さ晴らしの会話と以前は思ってきました。しかし実は若い男女が人間性を保つ一面でもあったと知ったのもこの期間でした。

皆さんは活水女子大学で学びの知識と情報だけではなく、授業の中で友人あるいは教員との間で言葉、会話を賢く活かし、これまでの損失を取り戻してください。そして「言葉を媒体に表現する能力」で困難や課題に直面したときに耐えうる知恵と忍耐を鍛えて頂きたいと希望します。

活水学院は創立150周年に向け「次の世代を担う女性」の育成を教育の目標に掲げました。皆さんの個性を磨き多様な見方と価値観に接して、思索を深めてください。そして深く自分自身を知る機会を作ってください。困難に直面したときの弱さの自覚と発見は、活水学院が依って立つ「神の支えと導き」という教育の土台になるものです。クリスチャンの教職員や時には学生が個人の物語や心境を語る「朝の礼拝」、また「チャペル・アワー」をその機会として活かしていただきたいと希望します。

最後に学生の皆さんには、活水女子大学で新しい興味や新しい出会いに恵まれ、友情を育み、豊かな人生の基盤作りができますようにと心から祈念し、院長の祝辞といたします。